

あいらじ
会長



公益財団法人岩手県体育協会

会長 達増 拓也

平素より当協会の諸事業に対しまして、格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
また、本県のスポーツ振興、そして、何より目前に迫ってきた「希望郷いわて国体」に向けた選手強化に多大な御支援、御協力を頂いていることに深く感謝申し上げます。

第70回国民体育大会は、天皇杯順位16位に躍進し、目標をほぼ達成することが出来ました。この成績は、2巡目国体以降、最高の成績であり、岩手の底力を示していただいたと共に、国体の開催に当たって、確かな手ごたえを感じる大会となりました。大会期間中、監督、選手、関係者たちが地域や学校の枠を越えて、「チーム岩手」として力の限り戦い、郷土のため全力を尽くした姿に、心から敬意を表したいと思えます。

和歌山国体の閉会式において、大会旗の引継ぎを受け「いよいよ私達、岩手の番となった」と感じました。「希望郷いわて国体」の冬季大会開催までおよそ1ヶ月。本大会まで10か月を切りました。これから更に、出来る限りの最高の準備をして、最高の戦いを挑んで行きたいと強く思っております。

来年の国体は、「東日本大震災復興の架け橋」という冠称のもとでの開催となります。岩手県出身の偉人、新渡戸稲造の言葉、「われ太平洋のかけ橋とならん」を踏まえたもので、全国と被災地域、また、現在と復興の先にある明るい未来を繋ぐ「架け橋」となることを願う意味があります。

東日本大震災津波から4年が経過し、被害を受けた本県も復興へ向けて邁進しているところではありますが、力強く前進する被災地の現状を見ていただき、全国の皆様に、感謝の気持ちを伝えるとともに、県民にとっても復興の力になる国体をめざして、県、開催地市町村が一丸となり「オール岩手」で準備に総力を挙げてまいります。

岩手国体の3年後の2019年には釜石市を会場のひとつとしてラグビーワールドカップが、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開かれます。スポーツが生み出す感動や、復興に向って力強く前進する姿は、岩手・東北から全国、そして世界へと伝わっていくことを確信しています。

そして、本協会は、この国体で培った競技力を維持し、進化させ、来年以降の国体、あるいは2020年に開催される東京オリンピックなど世界で活躍が期待される選手を輩出できるよう、一層の育成強化に努めてまいります。

皆様からのこれまでの御支援に心より感謝の意を表するとともに、役職員一同、本県のスポーツ振興になお一層寄与してまいりますので、今後とも変わらぬ御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。